

DD法による2016年10月21日鳥取県中部の震源分布

- 1943年鳥取地震の震源断層西端付近にある活動も含め、鳥取県中部では北北西-南南東に並ぶ地震活動が何列も連なる。
- 2016年9月下旬の活動は西側1kmほど離れており別の断層による活動の可能性が高い。

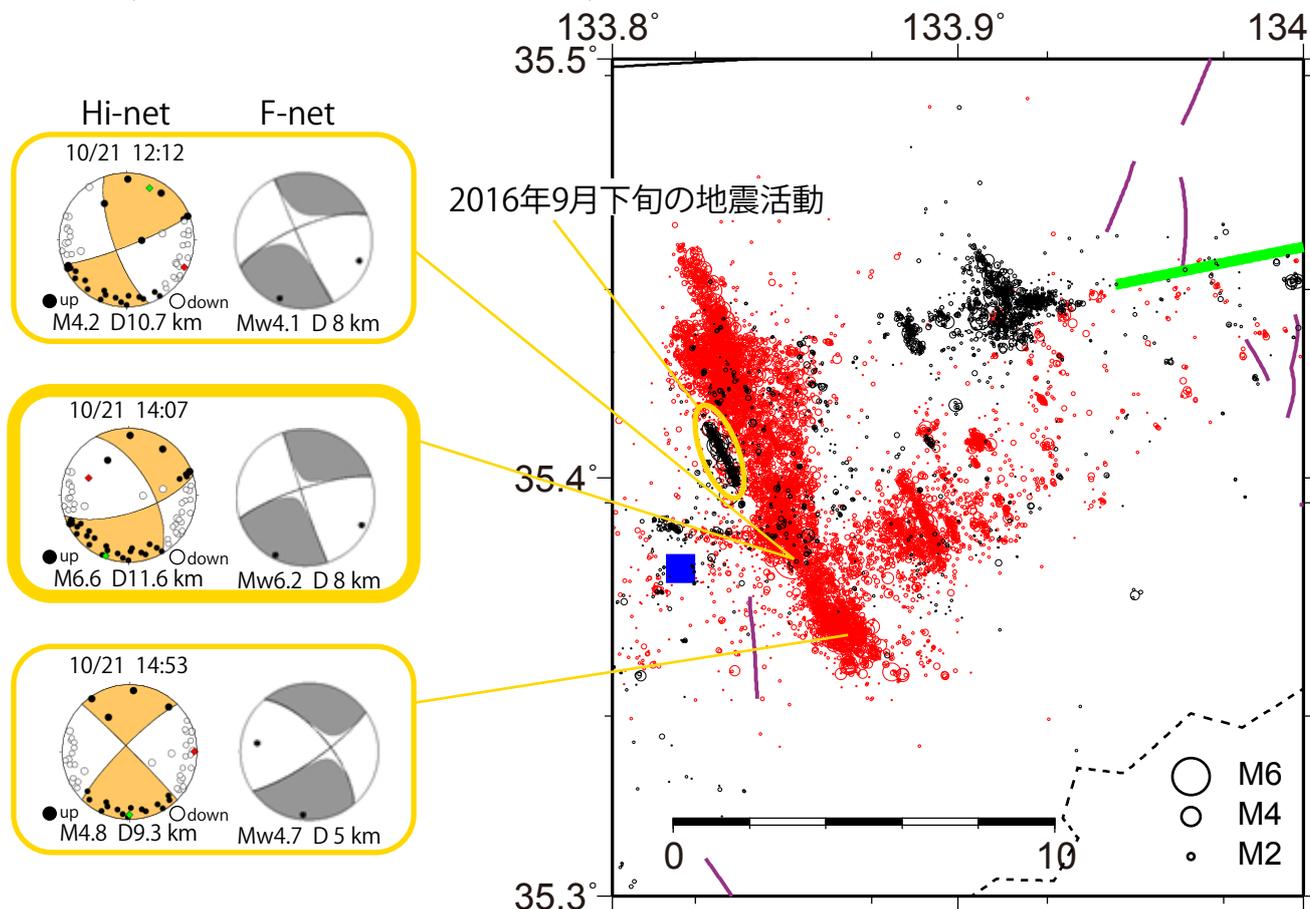
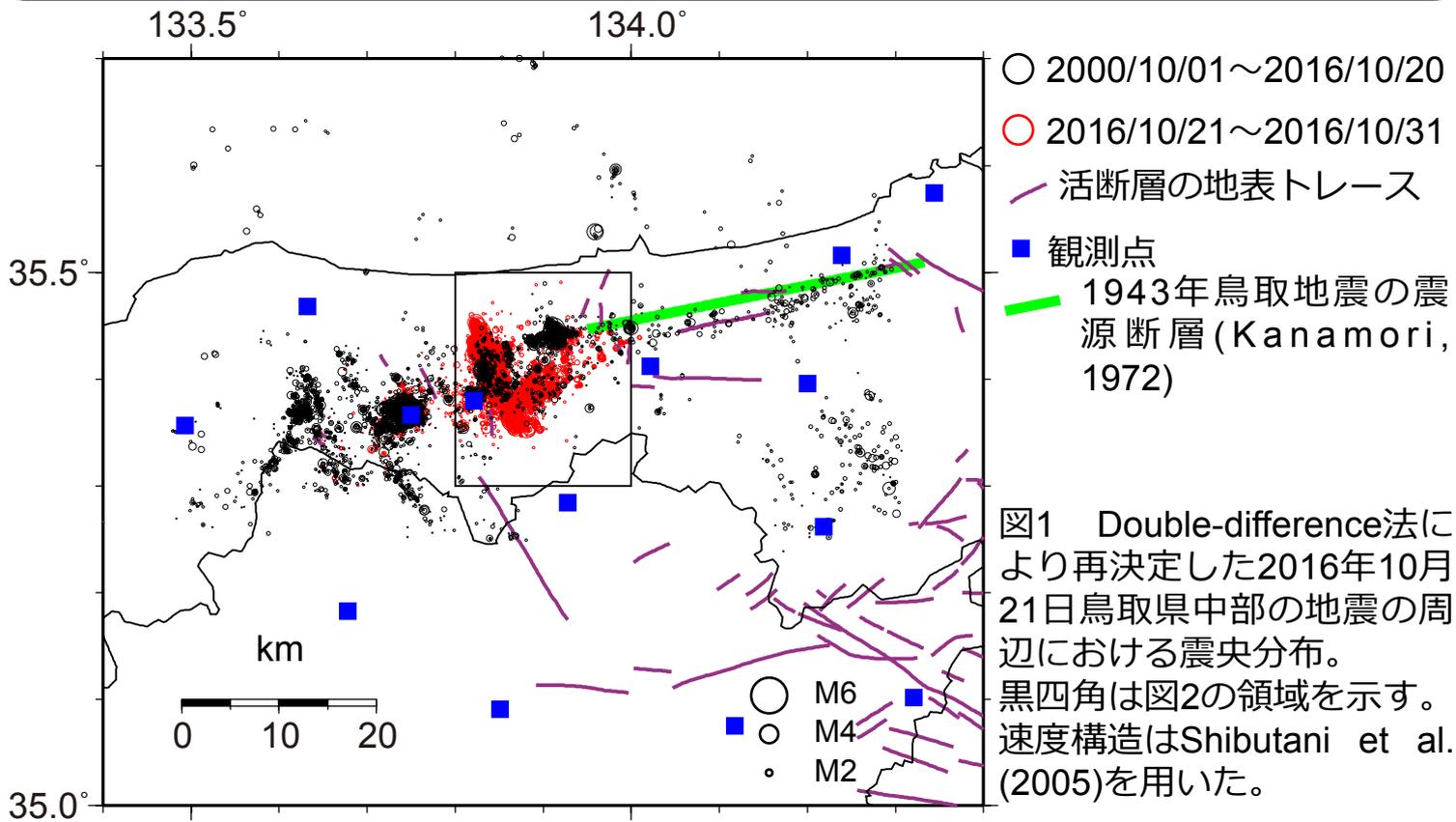


図2 Double-difference法により再決定した2016年10月21日鳥取県中部の地震の震央分布および防災科研Hi-net, F-netにより発震機構解(初動解およびMT解)。図1の黒四角領域の拡大図。シンボルは図1と同じ。

- ・震源から北側と南側で震央分布の走向に違いがみられ、南側ではやや東に振れる。(図3a)
- ・本震の震源の北側ではほぼ鉛直な面上に震源が並ぶ(図3b)が、南側ではやや西に傾斜する面上に載り(図3c)防災科研F-netのMT解によるdip(88°)と一致する。

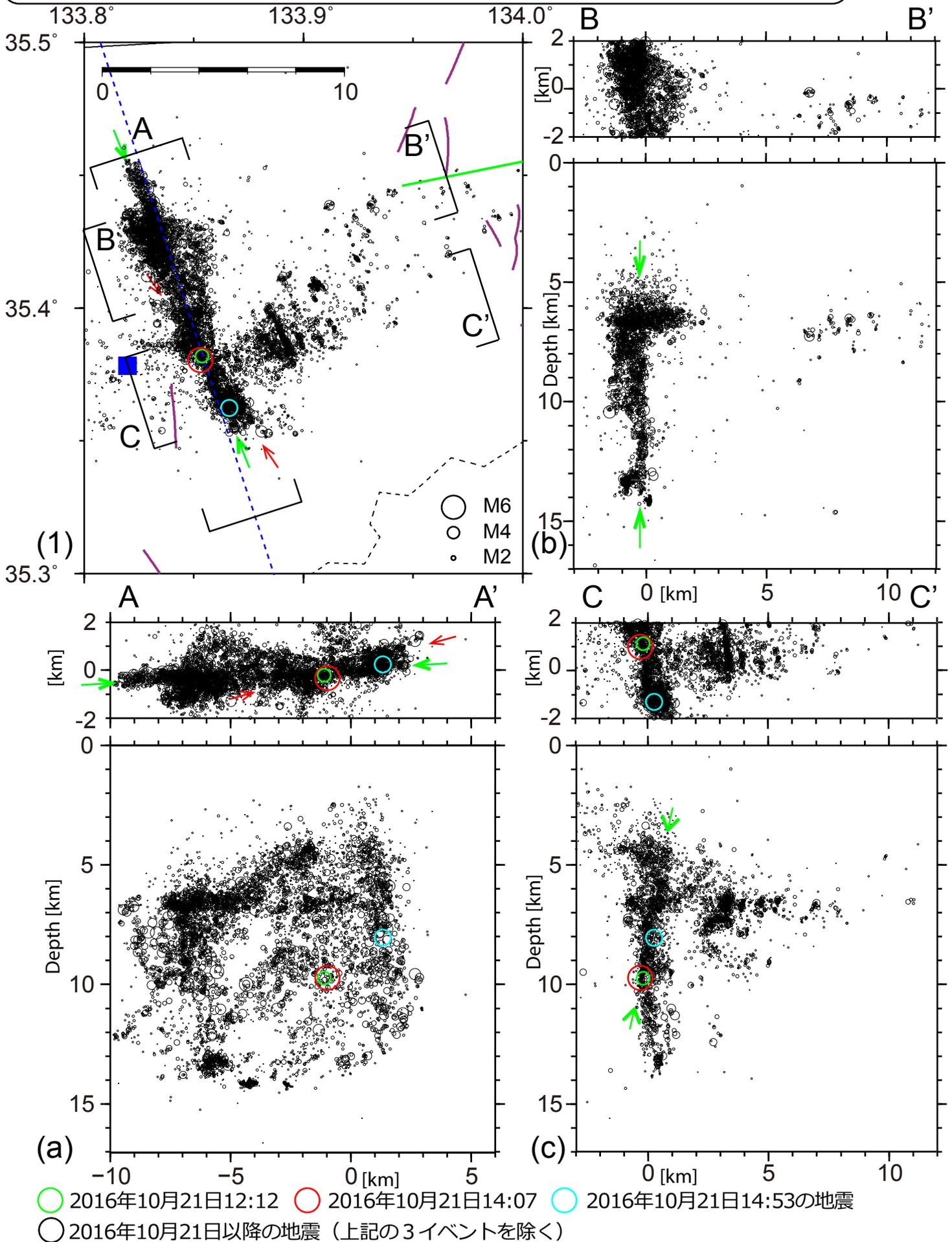


図3 (1)震央分布および(a)~(c)鉛直断面図。(a) 断層走向 162° に沿った鉛直断面図。(b)震源から北側における鉛直断面図。(c)本震の震源を含む鉛直断面図。(1)~(c)の矢印は震源分布の並びを示す。

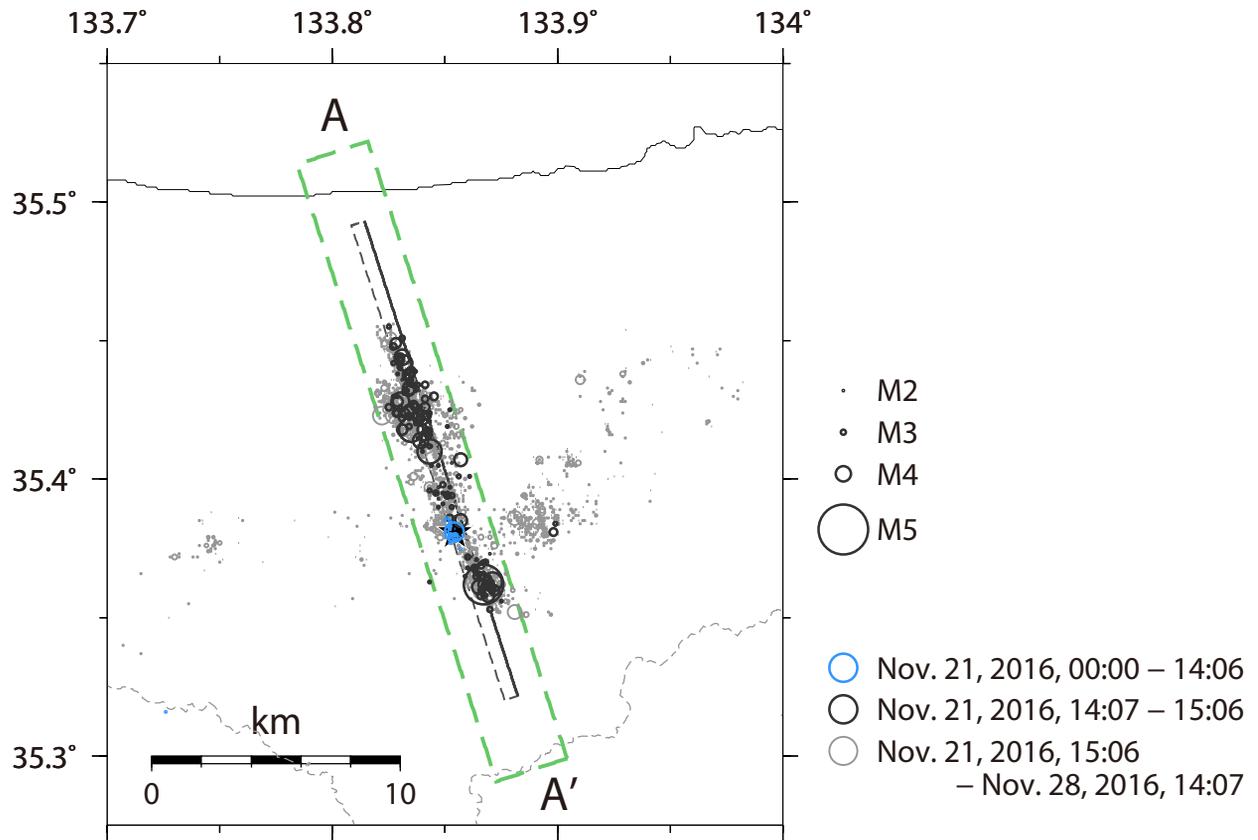


図5：2016年10月21日から28日までの地震活動の震央分布。ここではHi-netによる震源情報を用いた。星印は破壊開始点を示す。

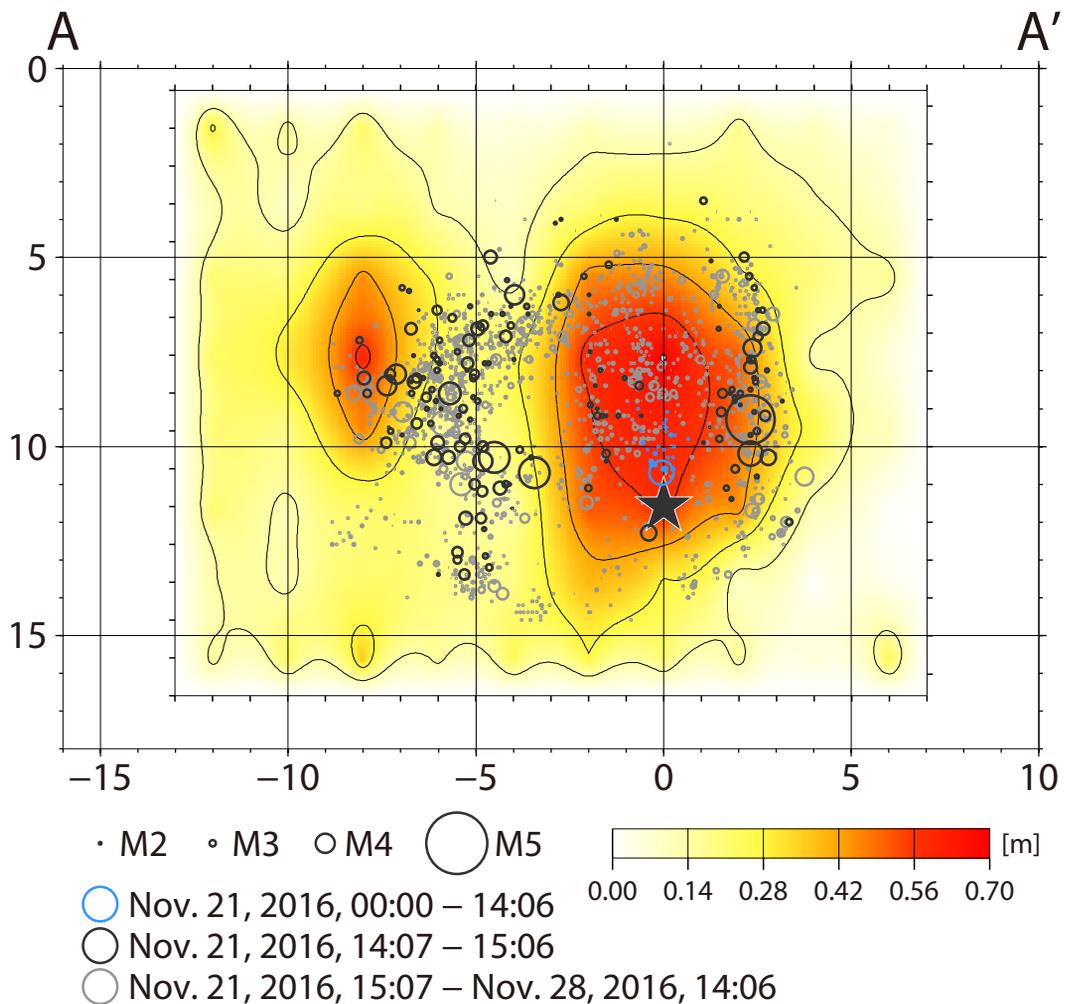


図6：図5の緑枠内の地震の鉛直分布と2016年10月21日鳥取県中部の地震の最終すべり分布の比較。